

代議士 中井川 浩

那珂市歴史民俗資料館



明治 33 年（1900）9 月市内門部の農家に生まれ、昭和 24 年（1949）11 月に土浦市で病没した政治家（50 歳）。非常な努力家、常にニコニコとして度量が広く、人情にも厚く種々の依頼には親切・迅速に対応して人望を集めました。

（1）父・与惣兵衛^{よそうべい}は茨城県巡査を務め、温厚・剛毅な人柄で信頼を得ていました。特に水戸警察署河和田村駐在所時代に、凶悪犯と格闘、重傷を負いながらも逮捕に繋げた警察魂は、国民に対して大きな感動を与えました。昭和 4 年（1929）秋に県下で行われた陸軍特別大演習行幸では昭和天皇に単独拝謁の光栄に浴しました。

（2）浩は、大正 3 年（1914）に水戸中学校（現 水戸一高）へ入学しましたが、同 6 年に中退（教師批判に因る退学処分）しました。しかし、大正 10 年（1921）敬慕する水戸中学校の菊池謙二郎校長が舌禍事件で辞職すると抗議して「同盟休校（生徒が一致団結・同盟して授業を放棄すること＝学生ストライキ）」に及んだ生徒たちに理解を示して奮闘し、退学処分となった学生の転学に尽力しました。

（3）大正 10 年日本大学専門部政経科 2 学年を修了した後、「やまと新聞社」水戸支局に勤務、翌 11 年「報知新聞」水戸支局勤務となり、茨城県知事守屋源次郎の県政を批判攻撃、同社土浦支局長に栄転後も攻撃を続けて休職に追い込む正義感・記者魂を貫きました。大正 13 年（1924）に衆議院議員原脩次郎の秘書となり、翌 14 年（1925）には「夕刊茨城民報社」を創立。会社は、昭和 2 年（1927）に「茨城新聞社」と合併して同社の取締役となりました。

（4）昭和 4 年（1929）4 月土浦町会議員となり、同 6 年 9 月には郷里の那珂郡選挙区から茨城県議会議員選挙に立候補して当選。翌 7 年 2 月、茨城県第 2 区から衆議院議員に当選（衆議院議員選挙で 3 回当選）。昭和 8 年 4 月の新宿御苑での天皇・皇后両陛下の観桜会に招待され、翌 9 年（1934）には勲四等瑞宝章を賜りました（同 16 年に勲三等瑞宝章）。同 11 年 2 月には文部大臣川崎卓吉の秘書官となり、5 月には衆議院から特派のノモンハン現地視察団に参加しています。

（5）昭和 8 年（1933）5 月の久慈川改修期成同盟会の設立には、珂北選出の山崎猛・石井三郎代議士と共に賛意尽力し、同 11 年 5 月に久慈川改修・水源地治水促進に関する建議案を衆議院建設委員会に提出して可決、翌 12 年 3 月には改修並びに上流砂防工事案を可決させました。続いて同 13 年 3 月 7 日の貴族院・衆議院で久慈川改修事業予算が可決され改修事業はスタートしました。また、昭和 13 年（1938）6 月 29 日、土浦市全市街を濁流が呑んだ大水害に対し、内務大臣・農林政務次官を案内して惨状を視察させ、罹災者救援・復興対策を推進させました。

（6）昭和 11 年（1936）の 2・26 事件の際には、川崎卓吉^{さくみす}文部大臣の秘書官^{にわか}として身命を賭して宮中に一番乗りし、迫水内閣書記官長にかわって俄書記官長となり緊急閣議の招集に奔走しました。陸軍参与官、文部省委員や厚生政務次官、茨城県佃煮製造工業組合理事長、茨城県淡水産魚類配給会社社長を歴任して尽力する中、終戦を迎えました。

（7）昭和 21 年（1946）5 月、霞ヶ浦海軍航空隊跡に（財）霞ヶ浦農科大学（後に茨城大学農学部）を創立し、土浦海軍航空隊跡に大学併設農業学校（後に霞ヶ浦高等学校）を設立。翌 22 年常陸セメント取締役会長に就任するも 12 月に公職追放に処せられます。昭和 23 年 7 月、常陸セメント販売代理店中井川商店を開業、翌 24 年 4 月には茨城石炭株式会社を創立しましたが 11 月 3 日に死去しました。



きごう しんとくしゅうぎょう
浩の揮毫「進徳脩業」

『中井川浩の横顔』より
（「進徳脩業」とは、よく学び、よい行いをして立派な人になること。）